

小学校

平成 11 年 度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

平成11年度

教育研究員名簿

地 区	学 校 名	氏 名
台 東	台 東 小	斎 藤 圭 子
墨 田	菊 川 小	星 野 加 代 子
目 黒	五 本 木 小	白 井 佳 代
豊 島	西 巢 鴨 小	○ 中 山 純 子
練 馬	光 が 丘 第 二 小	後 藤 京 子
足 立	東 湊 江 小	神 田 ゆ かり
立 川	第 五 小	◎ 竹 山 み どり
三 鷹	第 二 小	小 崎 仁
青 梅	友 田 小	佐 藤 南
稲 城	稲 城 第 八 小	坂 根 紀 子

◎世話人 ○副世話人

担 当 都立教育研究所教育研究所 教科教育部
株 本 光 子

目 次

I 研究主題と研究の概要

1 研究主題設定の理由 — 今, なぜ創造的な学習活動か	2
2 研究のねらい — 児童の主体性と教師の授業改善	3
3 研究の方法	3
4 研究の構想	4

II 研究の内容

1 学習指導案作成の手順	5
2 教材選択の視点	7
3 学習指導過程の工夫	10
4 年間指導計画への位置づけ	14
5 実践授業	18

IV 研究のまとめと今後の課題	24
-----------------------	----

I 研究の概要

1 主題設定の理由 ― 今、なぜ創造的な学習活動か

私たちの接する児童にとって、小学生の時代は今しかない。この児童に、自己表現の喜び、人とのかかわり合いの喜び、音楽を自分でつくり出すことや工夫することの喜びを味わわせたい。そのために、児童の創造性や主体性が発揮できるような授業の展開ができる力をさらに身に付けたい。これが、私たちの願いである。

この願いの実現によって、社会がどんなに変化しようとも、児童は自分の力で新しいものを生み出したり、様々なところから得た情報を再構築したりして、21世紀をたくましく豊かに生きていくことができると考えた。

平成12年度から移行措置期間となる小学校新学習指導要領は、次のような観点を重視して改善が図られた。

ア 音楽を愛好する心情と音楽に対する豊かな感性を育てるとともに、音楽活動に必要な基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことを一層重視する。

イ 児童が楽しい音楽活動を通して、表現や鑑賞の能力を高めるとともに、音楽活動の喜びを味わい、生涯にわたって音楽に親しむ態度や意欲を育成することを重視する。

ウ 学校や児童の実態に応じた弾力的な指導を進めることにより、児童がゆとりをもって音楽活動に取り組むとともに、個性的で創造的な学習活動をより活発に行うようにする。

また、平成9年度に発表された文部省「小学校教育課程実施状況調査を踏まえた音楽科の学習指導の改善」に、今後の課題として各学年の内容A表現(2)において子どもたちが感じたことやイメージを広げたことを素直に生かし、楽しい学習活動を展開できるようにする。(4)においては自分なりの音楽をつかって表現することを楽しむ学習を進めることができるようにする。等があげられている。

教育研究員として、これらの趣旨等の実現を目指し、児童の主体的な活動、創造性を伸ばす活動に焦点をあてた研究を推進したいと考え、研究主題「創造的な学習活動を楽しむ児童の育成」を設定した。

そして、本研究の目指す児童像を次のようにまとめた。

- (1) 音楽活動を通して心の成長や人間関係を育むことができる子
- (2) 創意工夫を生かし、自分自身の音楽をつくり出そうとする子
- (3) 様々な音楽経験を自らの生活に生かすことができる子

また、本研究における創造的な学習活動を次のようにとらえた。

- (1) 既存の音楽作品を自ら工夫して演奏したり、積極的にそのよさや美しさを感じ取りながら聴いたりする活動
- (2) 既存の作品とのかかわりを通して、より広がりのある音楽表現を工夫していく活動
- (3) 児童が自分自身の考えに基づいて、自分なりの新しい作品をつくり上げる活動

各学年の内容A表現(2)「曲想(第1学年及び第2学年「楽曲の気分」)や音楽を特徴付けている要素を感じとって、工夫して表現できるようにする。」と、A表現(4)「音楽をつくって表現できるようにする。」の2つの内容に焦点をあて研究に取り組んだ。

2 研究のねらい——児童の主体性と教師の授業改善

創造的な学習活動を推進するには、児童が興味・関心、必要感をもち課題解決をしながら、自らの力で音楽に対する感性や知識や技能を獲得し、音楽活動の基礎的な能力を高めていく学習の充実が大切であると考えた。

音楽科で身に付けた基礎的な能力は、「総合的な学習の時間」や生活の中で生かされることによってより確実に身に付き、生活を明るく潤いのあるものにする力となる。この意味から創造的な学習活動の充実への期待は大きい。

音楽科の教師に求められている「教えること」とは、音楽活動の基礎的な能力を確実に一人一人のものにすること、自ら課題をもち、自ら感じたことをもとに、創造し表現する中でよりよく問題を解決していこうとする力を育てることである。児童に自分が身につけている音楽的な能力の認識を促し、それを生かして楽しむ児童を育てることである。目の前にいる児童が中学生、高校生、成人へと成長するなかで、その年代に応じて“好きな音楽”や自分の“いい音”をもち続けるための教育が必要である。

実際の授業を通して、学習内容を一人一人の児童が確実に身に付ける学習、自分の思いを音楽で表現したいと感じ、それが表現できるようにする学習、学んだことを生活の中に生かすことができるようにする授業展開を求めていきたい。

そこで、本研究のねらいを「児童一人一人が主体的、創造的に取り組む音楽活動の在り方を授業改善を通して明らかにする」とし、以下の4つの点から授業改善に取り組み研究主題に迫ろうとした。

① 学習指導案作成の手順

年間指導計画に位置付けられた題材を、学校や児童の実態に応じた授業として進めるための学習指導案の作成手順を示す。

② 教材選択の視点

一人一人の児童が題材の目標を実現するための価値ある教材選択の観点を示す。

③ 学習指導過程の工夫

児童が音楽のよさや美しさを感じて、工夫したり試したりするなかで、一人一人が学習内容を身に付けていくための学習指導過程の在り方を示す。

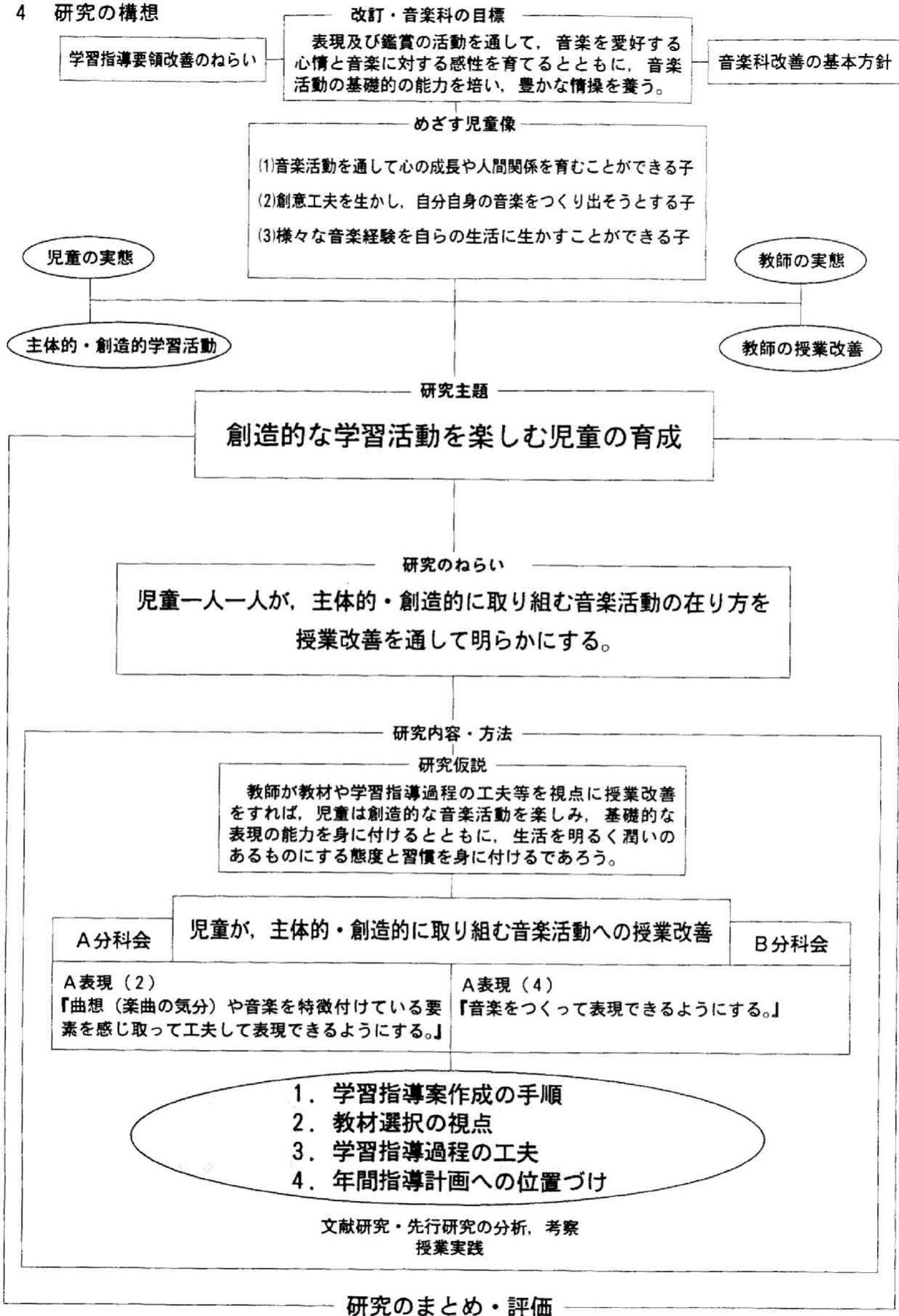
④ 年間指導計画への位置付け

音楽の授業時数が少なくなる中で、児童や学校の実態を踏まえ、題材がバランスよく配置され、児童が無理なく学習内容を身に付けられる計画例を示す。

3 研究の方法

- (1) 音楽科における「創造的な学習活動」に関する先行研究及び実践事例を収集、分析する。
- (2) 学習指導要領の各学年の内容「A表現の(2)」「A表現の(4)」の2つに焦点をあて、その望ましい指導の在り方を提案し、授業実践を通して検証をする。
- (3) 新しい学習指導要領に対応した年間指導計画や学習指導案の作成の手順を提案し、実践に生かす。

4 研究の構想



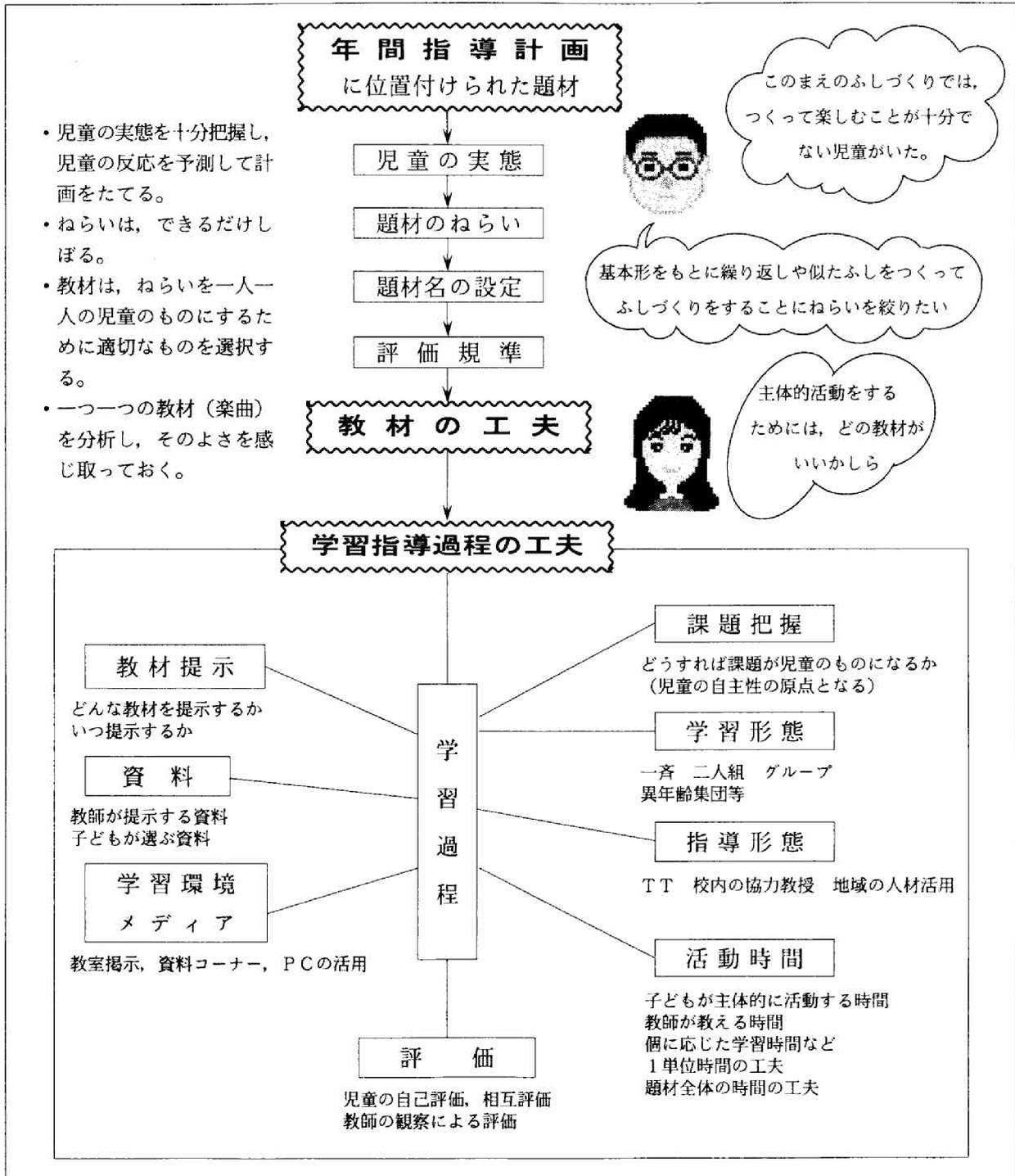
Ⅱ 研究の内容

1 学習指導案作成の手順

年間指導計画に沿って授業を実施し、学習内容を確実に児童に身に付けるには、児童の実態を見きわめながら授業を組み立てることが必要である。

そこで、まず学習指導案の作成の仕方に取り組みどのような手順で作成するとよいか、またどのような視点から学習の方法を考えればよいかを明らかにした。

(1) 学習指導案作成の手順



(2) 学習指導展開の試行

今後、時間数が削減される中で、基礎・基本の確実な定着が求められていることを考え、児童の実態把握を指導案作成に生かし、児童が〈基礎的・基本的な内容を身に付ける題材〉と〈学んだことを生かして音楽を楽しむ題材〉とに分けて学習することを試みた。

(p.17年間指導計画参照)

〈基礎的・基本的な内容を身に付ける題材〉

題材名	ふしの重なりを感じて（4時間扱い）	
目標	①ふしの重なりや和声の響きを感じ取り、楽しく演奏する。 ②伴奏に合わせて自分の選んだふしを演奏することができる。	
教材名	「パッヘルベルのカノン」	
	一 次 （2時間）	二 次 （2時間）
学習内容	1. 自分で選び、練習したふしを伴奏と合わせる。	2. 組み合わせを変えながら、2つのふしと伴奏を合わせる。
備考	<ul style="list-style-type: none"> カノンのパートを難易度別に提示し、児童が自分の力や興味、関心に応じて選択する。 メトロノームや自動伴奏の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の動きのちがいを生かして合わせる相手を選び、伴奏と合わせる。 自動伴奏や録音機器の活用。

〈学んだことを生かして音楽を楽しむ題材〉

題材名	和声の響きを楽しもう（5時間）	
目標	①ふしの重なりの面白さを感じながら、重ね方を工夫する。 ②今まで学習したことを生かして、グループで表現形態を選び演奏を楽しむ。	
教材名	「パッヘルベルのカノン」「静かにねむれ」「くちぶえふいて」「山のひつじかい」他	
	一 次 （1時間）	二 次 （4時間）
学習内容	1. 学習経験を生かして計画をたてる。	2. 表現形態をグループで選択し、楽器やパートふしの重ね方を工夫しながら演奏を楽しむ。
備考	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードに完成までの計画を児童が記入する。 教師は手順に無理がないか助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師は活動の場所の確保や、機器及び資料等、学習環境に十分な配慮をし、児童の活動を見守る。 一人一人の活動の見取りと支援のために、担任等と、可能ならばT・Tを組む。

2 教材選択の視点

創造的な学習活動を楽しむためには、題材の目標に沿って児童が主体的に学習し、創造性が発揮できるような授業を展開することが大切である。そのためには、教材は、題材の目標を児童が実現するためにふさわしい楽曲等を選択する必要がある。そこで、どの児童も満足できる授業をするためには、各学年の内容「A表現(2)」「A表現(4)」においてはどのような観点で教材を選択したり、開発したりすることが望ましいかを明らかにした。

A表現(2)について

(1) 教材選択の観点（題材の目標と結び付けて判断する）

- (ア) 感じ取ったり工夫したりする音楽を特徴付けている要素を感じ取ることができるもの
- (イ) 歌詞や旋律からイメージを広げやすいもの
- (ウ) 表現の工夫をする要素が複数含まれて、学習活動が発展させられるもの
- (エ) 楽器の選択の幅があるもの
- (オ) 表現形態の選択が可能なもの
- (カ) 身体表現が容易なもの
- (キ) 編曲が容易なもの
- (ク) 演奏技能に無理がないもの

(2) 学習指導要領の内容と関連した教材選択例

実施学年 第3学年

題材名 「拍子を感じて」

題材の目標

- ① 楽しんで3拍子のリズムを感じ取るようにする。
- ② いろいろな3拍子のリズムを感じ取る。
- ③ 感じ取ったリズムを歌やリコーダー、身体で表現することができるようにする。

使用教材

- ・「あの雲のように」（美龍明子作詞 外国曲）
- ・「いるかはざんぶらこ」（東 龍男作詞 若松正司作曲）
- ・「ソラシのワルツ」（広瀬 量平作曲）
- ・「メヌエット」（バッハ作曲）

教材選択の観点

- ① 目標の②「3拍子にも感じの違う曲があることを感じ取るようにする」を一人一人のものにするために、歌ったり、リコーダーで演奏したり、また身体表現をしたりして感じ取ることができるよう、感じの異なった上記の4曲を選択した。
- ② 目標の③「感じ取ったリズムを歌やリコーダー、身体で表現できるようにする」を一人一人のものにするために、子どもたちが無理なく、楽しく表現できるという点から、上記の4つの楽曲を選択した。

A表現(4)について

「音楽をつくって表現する」活動の教材とは、既成の楽曲だけでなく、参考となるCDやLD、また教師や友達の演奏した作品も含んでいる。また、活動そのもの、音が出るもの、

たとえばトガトン（竹の筒）、石なども教材としてとらえている。

(1) 教材選択の観点（題材の目標と結び付けて判断する）

- (ア) 作品づくりの過程において、ヒントになるもの
- (イ) 作品づくりのアイデアを引き出すためのもの
- (ウ) イメージを広げるためのもの
- (エ) 新たな体験に気付くもの
- (オ) 活動する児童や音素材の範囲が一定にとどまらず相互に作用しあって活動が広がるもの
- (カ) 技能的に、無理なく取り組めるもの

(2) 教材の例示

授業時数が大幅に削減される中で、音楽活動の基礎的な能力の定着を図るには、「つくって表現する活動」においても表現と鑑賞の結びついた活動や、短時間でも十分につくって表現したことを味わうことができる活動などを工夫していくことが必要である。また、どの教師も抵抗なく取り組むことができ、しかも児童がつくる過程やできあがった作品に満足感を味わうことができる活動が必要である。

ア 年間を通して継続的に活動できる教材

- ・リズム遊び（リズム問答　リズム模倣　等）
- ・挨拶のふしづくり（授業の始まり時♪こんにちわ　終わり時♪さようなら　等）
- ・音楽ゲーム（音あてクイズ、声あてクイズ、ふしに合わせたことばリレー　等）

イ 学年を問わず、共通して取り扱える教材

- ・オノマトペによる音楽づくり（自然音、動物の声、人の声　等）
- ・パターンミュージック（全校のリズムアンサンブル、自分たちのケチャ　等）
 - *オノマトペ：擬声語、擬態語
 - *パターンミュージック：音、メロディー、リズムが一定の型で繰り返される音楽

ウ 短時間で活動できる教材

- ・身の周りのものを使った音楽
- ・声のアンサンブル（名前の音楽）

A 表現(2), (4)共通 教材選択の配慮点

- (ア) 児童が興味・関心、意欲をもって取り組めるもの
- (イ) 児童の発達段階にあったもの
- (ウ) 学校行事や他教科に関連したもの、地域性のあるものなど生活に密着したもの
- (エ) 児童の心情に合ったもの
- (オ) 児童の身につけている能力を生かすもの

(4) 教材の取り扱い例〈A表現(4)について〉

題 材 名	体から出る音を楽しもう	
教 材 名	「音のカーニバル」 芙龍明子 作詞 橋本祥路 作曲	
教材選択の観点	(ア) 作品づくりの過程において、ヒントになるもの (イ) 作品づくりのアイデアを引き出すためのもの (ウ) イメージを広げるためのもの (エ) 新たな体験に気付くもの (オ) 活動する児童や音素材の範囲が一定にとどまらず相互に作用しあって活動が広がるもの (カ) 技能的に無理なく取り組めるもの (実践では、主にオの観点から選択した)	
対象学年	： 中学年	
時 数	： 1～2時間	
題材の目標	体のいろいろなところから音を出し、楽しく表現する。 拍の流れによって、休符のところに自分のつくった音を入れて表現する。	
	学 習 内 容	つ く る 手 順
	1 体から出る音の参考CDを聴く。(声 ボディパーカッション) 2 自分の体からはどんな音が出るのか、工夫して出してみる。 3 拍の流れによって、友達の音と合わせる。 4 友達と工夫していろいろな音が出るように練習する。 5 発表し合って聴き合う。	気 付 く 試 す つ く る 深 め る 聴 き 合 う
考 察	この教材は、音のカーニバルの歌が歌えれば、短時間でできるよさがある。 また、声を含めて自分の体から出る音を探してつくる楽しさも含んでいる。	

題 材 名	雨の音をつくろう	
教 材 名	「世界地図のフーガ」トッホ, E, 作曲 「雨 1975」シュラーブネル, H. 作曲	
教材選択の観点	(ア) 作品づくりの過程において、ヒントになるもの (イ) 作品づくりのアイデアを引き出すためのもの (ウ) イメージを広げるためのもの (エ) 新たな体験に気付くもの (オ) 活動する児童や音素材の範囲が一定にとどまらず相互に作用しあって活動が広がるもの (カ) 技能的に無理なく取り組めるもの (実践では、主にア, イ, ウの観点から選択した)	
対象学年	： 全学年	
時 数	： 1～6時間	
題材の目標	リズムや音の高さ、強弱などを工夫して、声や言葉の即興的な音楽づくりを楽しむ。	
	学 習 内 容	つ く る 手 順
	1 声を使って色々な表現をすることに慣れる。(ハローゲーム) ・ ♪♪♪} によって自分の名前のリズムを工夫して表現する。 ・ ♪♪♪} によって自分の名前の音高や強弱を工夫して表現する。 2 雨の音をつくる。(「世界地図のフーガ」を聴く。) ・ 拍に合わせてリズムや音の高さ、強弱などを工夫して「雨の音」をつくる。 ・ 一人一人が「雨の音」を表現していく。 ・ グループごとに一人一人の「雨の音」の組み合わせ方を工夫する。 3 お互いのグループの「雨の音」を発表し、聴き合う。 ・ 他のグループの「雨の音」を味わって聴く。	模 倣 す 試 す 気 付 く つ く る 深 め る 聴 き 合 う
留意事項	低学年では、自分の「雨の音」を考え、その音を教師の合図で合わせるだけでもよい。中学年は、音の組み合わせ方、高学年は構成を考える。 全学年で楽しむ場合は、教師が全体構成をしておき、音楽朝会などで演奏する。	

3 学習指導過程の工夫

児童が題材の目標を主体的に、楽しく実現するために、児童の実態に照らし合わせて、どんな活動をしていくか考えることが大切である。

(1) A表現(2)について

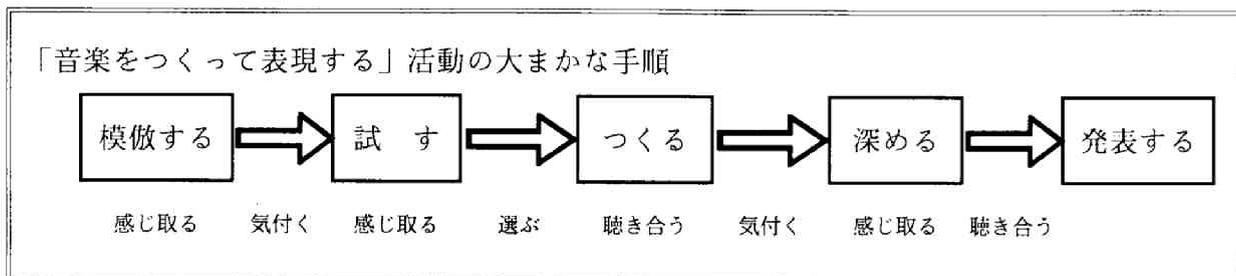
ここでは、児童の視点に立って教師がどのような工夫をすればよいか考えた。

学習活動の工夫	予想される児童の気持ち	教師の工夫
(1) 課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・何をするかはっきりわかった。 ・早くやってみたい ・こんなことをやってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を児童の実態に照らしてしぼる。 ・ねらいを児童がとらえやすい言葉であらわす。 ・学習カードの活用
(2) 学習形態	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちといっしょに合わせて演奏すると楽しいな。 ・友だちのいいところを見つけた。 ・みんなで音を合わせたいな。 ・一人でじっくり味わってみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいにあった学習形態 一斉、ペア、グループ、異年齢集団等
(3) 指導形態	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人教えて！ ・もっとできるようになりたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の問いに答えるための指導形態を考える（担任＋専科TT等） ・学校外の人材を活用
(4) 活動時間	<ul style="list-style-type: none"> ・こういうふうに演奏すればいいんだ。 ・じっくり味わいたいな。 	<p>[ねらいを達成するための時間配分]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が教える時間の設定 ・児童が教えた事を味わう時間の設定
(5) 教材提示	<ul style="list-style-type: none"> ・うん、これはわかりやすい。 ・こうすればいいんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいにあった教材の選択 ・提示のタイミング 楽曲の歌詞だけ 強弱記号を除いた楽譜 異なる楽曲等
(6) 資料	<ul style="list-style-type: none"> ・こんな感じかな。 ・これ、見たことあるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが実感できるもの。 絵・写真・実物・映像等
(7) 学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・わあ！掲示物が楽しそう ・この表わかりやすい。 ・ここなら音を聴きやすいな。 ・演奏したいな。 ・ここで調べられるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物 ・活動場所 ・メディア ・資料コーナー
(8) 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・このパートが歌えた。 ・工夫できて気持ちよかった。 ・ここが、わからない。 ・これができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカード ・助言 ・共につくる

(2) A表現(4)について

児童が音や音楽をつくる時、何もないところから新しいものを創ることはできない。何をするのようにつくっていくかが、わかりやすく示されることによって、児童は安心して音楽に対する感性を働かせながら、繰り返し活動することができる。そこから新しいものをつくり出し、つくる喜びや楽しさを実感するとともに、他の表現や鑑賞の活動に生かすことができるようになる。

そこで、音楽をつくって表現する活動を児童が主体的に取り組むために、「つくる手順」を示すことが大切であると考えた。



この手順は、つくって表現する活動を効果的に進めるための活動の流れである。上の図に示したように、「模倣する」「試す」等の活動は、それだけで成り立つものではなく、「感じ取る」「気付く」「聴き合う」「選択する」などのさらに細かい活動が繰り返し行われて、よりよい表現につながるのである。

以下の表は、「ふしづくり」の実践例「ふしをつくろう、わたしたちは光二小のサンサーンス」からつくる手順と活動内容を関連づけて整理したものである。

つくる手順	活 動 内 容
想像する	<ul style="list-style-type: none"> イメージを広げるための教材（参考CD、LD）を聴いたり見たりする。 曲の感じと音楽の構成要素（音の高低、音量、音色等）との関係に気付く
気付く	
模倣する	<ul style="list-style-type: none"> つくり方のヒントを織りませた教師の作品（表現）を模倣する。
感じ取る	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な要素について自分の中で共感できる部分を感じ取り、試しながらイメージを広げる。 何のふしをつくるのか、選ぶ。
試す	
選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> イメージにあったふしを、自分が選んだ楽器で、音楽の構成要素を考えながらつくる。 （音形カード、イメージカードの活用） 友達と互いに聴き合い、直し合いながら練習を重ねる。
つくる	
聴き合う	<ul style="list-style-type: none"> 発表して聴き合い、友達の作品のよさに気付く。
深める	
発表する	

(3) 児童の学び

児童には、自分たちの課題を把握するとともに、課題が実現できたかを確認するための振り返りが大切であると考えた。また、教師にとっても、学習のねらいが児童一人一人に確実に身についたかどうかを把握したり、学習の過程における一人一人の学ぶ姿を確認したりするために振り返りが必要であると考えた。

そこで、以下の点を考慮しながら振り返りカードを作成した。

次時に向けた授業改善の視点を見いだす資料とする。
 児童にどんな力をつけさせたいのか明確にしておく。(1学期, 1題材, 1時間ごと等)
 どんな力が身に付いたかわかるような資料とする。
 児童が次の学習のめあてや励みを得られるようにする。

① サンプルⅠ 振り返りカード 題材名「ふしをつくろう」 第4学年

ア 課題をはっきり記入し、児童が何について学ぶかをわかりやすくした。

イ 本題材の学習内容全体をカードに書いて、児童にも学習の流れがはっきりわかるようにした。

ウ 記入する時間を短くするため、文章の記述を減らし、記号による記述を多く用いた。

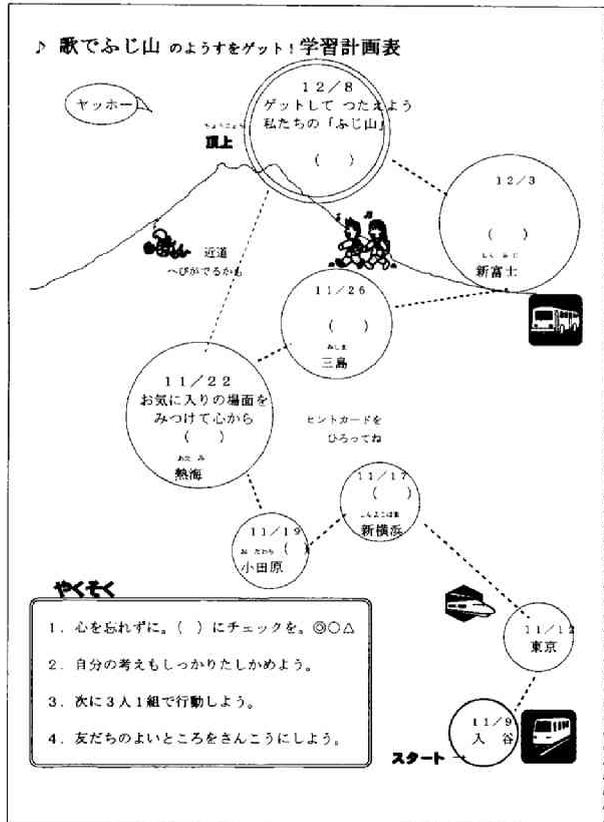
ふしをつくろう ～わたしたちは()小のサンサーンス～ 4年 組名前				
学習のまともり	きょうの学習	◎○△	感想	先生から
9月20日 「動物の謝肉祭」を聴いてみよう	○動物の大きさや動き、鳴き声と、音の高低・強弱・音色を結びつける。	◎	おもしろかった。おもしろかった。	おもしろかった。おもしろかった。
9月27日 リコーダーでカッコウのふしづくり	○ソラシドレの音を使ってリコーダーでカッコウのふしをつくる。	◎	おもしろかった。おもしろかった。	おもしろかった。おもしろかった。
9月27日 もとになるふしづくり	○動物の鳴き声や様子を絵楽譜(図)する。	◎	おもしろかった。おもしろかった。	おもしろかった。おもしろかった。
9月30日	○動物に合う楽器を選ぶ。 ○図をもとに「もとになるふし」をつくる。	◎	おもしろかった。おもしろかった。	おもしろかった。おもしろかった。
10月7日 新しいふしづくり	○「もとになるふし」くり返し 新しいふしの付け加え	◎	おもしろかった。おもしろかった。	おもしろかった。おもしろかった。
10月7日	○「もとになるふし」くり返し 新しいふしの付け加え	◎	おもしろかった。おもしろかった。	おもしろかった。おもしろかった。
10月12日 仕上げよう	○動物の鳴き声や動きにヒントをもらおう。 逆さ・強弱	◎	おもしろかった。おもしろかった。	おもしろかった。おもしろかった。
10月19日 発表しよう	○友だちの前で発表する。 ○友だちのふしを聴いて、よさや工夫しているところを聴く。	◎	おもしろかった。おもしろかった。	おもしろかった。おもしろかった。
学習を振り返って世界にたった一つのふしができてよかった。				先生から おもしろかった。おもしろかった。

このカードをつくることにより、教師は学習のねらいや活動方法を児童の実態に応じて、より具体化することができた。また、児童を見る視点も明らかになった。

② サンプルⅡ 学習計画表 題材名「ようすを思いうかべて」第3学年

児童が主体的に学ぶための工夫として、課題を把握し学習に取り組むために、学習過程を児童がとらえやすい学習計画表と、工夫したことを児童が記入する学習カードとを表裏に作成し、評価にも活用できる手軽なもの1枚とした。このカードを頼りに児童は工夫を広げることができた。

〈表〉



〈裏〉

学習カード 3年組 なまえ ()

ふじ山

あ た ま を く も の う え に だ し

① え こぼ

か み な り さ ま を し た に き く

②

この他にも、学期始めや終わり、1年の締めくくりに音楽の授業についてのアンケートを実施する。アンケートには、返事を書いて返却し、児童とコミュニケーションをとるようにする。

また、これらの振り返りにより、児童の実態のとらえ直しが可能となり、年間指導計画の修正や次年度の作成に生かすことができる。各題材の学習計画や毎時間の授業の見直しは、教師にとって一步一步着実な授業改善への道をたどる一つの手がかりとなる。

5 年間指導計画への位置づけ

「5年生のあの子どもたちは、自然で無理のない声の出し方ができるようになったので、二部合唱を味わわせたい」「今年のアンサンブル活動の経験を生かして、表現形態を選択する活動を計画したい」など、教師は、一人一人の児童の姿を具体的にとらえながら年間指導計画を立てる。

年間指導計画の作成に当たっては、学習指導要領の内容を児童が楽しみながら主体的、創造的に学ぶことができるよう、学校行事等の流れも考慮に入れながら題材を配列することが大切である。以下は作成上のポイントを示したものである。

(1) 年間指導計画を立てる基本の考えを明確にもつ

各学校には、学校教育目標があり、それを実現するために教育課程が編成される。音楽科では、学校教育目標と音楽科の目標の実現を目指して、年間指導計画を作成する。

年間指導計画の作成に当たっては、音楽科で育てたい児童の姿を明確にしておくとともに、音楽的な諸能力、興味・関心、意欲等について、児童の実態、地域の実態を踏まえることが大切である。

(2) 学習内容を一人一人のものにする。

児童が音楽活動を主体的かつ創造的に楽しむためには、その学習が成立する基礎的な知識や技能、先行経験が必要である。このレディネスの視点から児童をとらえ、題材を配列する必要がある。

また、新学習指導要領では学んだことを確実に身に付けるために、意図的に繰り返し学習を積み重ねていくように各学年の内容が2年間をまとめて示されている。そのための視点として、題材のねらいの中に含まれている様々な音楽の構成要素を焦点化し、題材の配列に生かす、また、設定した題材の指導内容に極端な隔たりがないかどうかをチェックしどの内容も学習できるようにする、身に付いたことが次の学習に生かされるよう系統性や発展性も考慮していく等が必要である。

使用する教材の選択に当たっては、楽曲のよさや教師の思い入れも大切にしながら、児童が題材のねらいを実現するために効果的な楽曲等を選択するようにする。

(3) 授業時間の効果的な活動を図る。

新学習指導要領では、低学年の時数は変わらないが、45分を単位時間として中学年では年間60時間、高学年では50時間が音楽の授業時数として示された。この中では、今まで以上に1題材の時数や題材の組み合わせの工夫が必要になる。

また、音楽科の学習で身に付けたことを各教科、総合的な学習の時間や学校行事また日常生活などに生かすことができるよう、教育課程全体を見通し各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連を図った年間指導計画を作成することが大切である。

さらに、教育課程の編成・実施について各学校の創意工夫が求められている中で、1週間の実施時間数は45分から90分またはそれ以上という幅が考えられる。題材の配列に当たっては、児童が興味・関心を持続し、学習効果を上げられる題材の時間数を学校全体の動きの中でとらえながら設定する必要がある。

(4) 年間指導計画例

① 題材に繰り返し学習を配列した年間指導計画（第1学年）

◎共通教材 ○鑑賞教材

《学年目標》 (1) 楽しい音楽活動を通して、音楽に対する興味や関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。 (2) リズムに重点を置いた活動を通して、基礎的な音楽の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。 (3) 音楽の楽しさを感じ取って聴き、様々な音楽に親しむようにする。		指導内容									指導内容		
		A 表現				B 鑑賞					A 表現	B 表現	
		(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(2)		
		音楽を聴いて演奏できるようにする	楽曲の気分や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。	歌い方や楽器の演奏の仕方をつけるようにする。	音楽をつくって表現できるようにする。	音楽を聴いてそのよさや楽しさを感じ取るようにする。					表現教材は次に示すものを取り扱う。	鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。	
題 材		ア	イ	ア	イ	ウ	ア	イ	ア	イ	ウ	主な教材	
1 学 期	みんななかよし (6)	○		○	◎		○					友達と声を合わせて歌う。身体表現をする。リズムの模倣。	てとてであいさつ かもつれっしゅ 国歌「君が代」・校歌
	リズムで遊ぼう (4)	○			◎				◎			わらべ歌で遊ぶ。リズム遊び、音遊びを楽しむ。	◎ひらいたひらいた ばすばすはする
	がっきでドレミファソ (5)		○			○	◎					階名唱したり、楽器（ハーモニカや鍵盤ハーモニカで）演奏したりする。リズムにのって歌ったり、	たこたこあがれ どれみのジェンカ ◎ひのまる
	いい音さがして (4)				◎			○	◎		○	楽器でいろいろな音を鳴らす。いろいろな楽器で模奏する。	○おもちゃのシンフォニー・ぶんぶんぶん
	けしきをおもいうかべて (4)	○		◎	◎						○	ていねいな発音で歌う。身体表現をしながら歌う。	◎うみ ○アメリカンパトロール
2 学 期	おんがくにあわせて (6)	○			◎		○	◎	○		◎	音楽に合わせてリズムうちをする。音楽に合わせて身体を動かす。	○にんぎょうのこうしん・おもちゃのチャチャチャ ○アメリカンパトロール
	サウンドマップをつくろう (3)							○	◎			外からきこえる音を絵を表す。絵に描いた音を表現する。	
	よびかけ遊びをしよう (6)	○				○	○	◎				交互唱をしたり、リズムの模倣、即興表現したりする。	こぶたぬきつねこ あいあい
	音楽でお話を (5)			◎	○					◎		様子を思い浮かべて音楽劇をする。	もりのくまさん あめふりくまのこ しゅっぱつ
リズムにのって (5)	○			○		○	◎	○	◎	○	簡単なリズム伴奏をつくる。拍子やリズムを感じて聴きなが身体表現をする。	とんくるりんばんくるりん ○おもちゃのへいたい	
3 学 期	みんなで合わせて (8)	○			◎		○					互いの歌声や楽器の音色を感じとって、歌ったり、合奏したりする。	こいぬのマーチ おおきなくりの木のしたで
	おとのたんけん (5)				○			◎	◎		○	身体からでる音をさがす。身体からでる音でリズムをつくる。歌に合わせてリズムをうつ。	おとのマーチ 身体からでる音
	あかるいこえで (7)	○		○	◎	○	◎					歌詞の表す情景を想像して歌う。友達の声に合わせて歌う。	あいあい・小さな世界 そろそろ春ですよ

☆網かけは A表現 (2)、(4) の内容をスモールステップで繰り返し学習する

② 「育てたい児童の姿を明確にした年間指導計画」(第3学年)

《学年目標》		指導内容										主な学習内容と活動	主な育てたい児童の姿			
		A 表現					B鑑賞									
		(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)					
(1) 進んで音楽にかかわり音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。 (2) 旋律に重点を置いた活動を通して、基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。 (3) 音楽の美しさを感じ取って聴き、様々な音楽に親しむようにする。		(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	音符や記号				
		音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏できるようにする。	曲想や音楽の特徴付けている要素を感じ取り、夫して表現できるようにする。	歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。	音楽をつくって表現できるようにする。	音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取るようにする。										
題材 (60)		ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ウ				
1 学 期	歌声広がれ (4)	○	○	◎	○								季節を感じ歌詞を生かして歌う。ハ長調の旋律を視唱する。手遊びをしながら歌う。	歌声に自分の気持ちをのせて生き生きと歌う。		
	リコーダーとなかよしになろう (6)	○			◎	○	○					○	リコーダーに親しみ基本的な奏法を知る。リコーダーのシを使った音遊びをする。	リコーダーに興味をもち、探すと美しい響きの音で演奏ができることに気付く。		
	がくふとこんにちは (4)			○	◎							◎	、五線、加線について知る。音階を身体表現をしながら歌う。	五線や加線について理解している。音階を感じ取って表現している。		
	拍子を感じて (6)	○		○	○	◎	◎							いろいろな拍子を感じて演奏する。言葉を使った音楽づくりをする。	言葉遊びや手拍子、身体表現などの活動を通して2拍子や3拍子を感じとって表現することができる。	
2 学 期	いい音えらんで (4)		○	○	◎	◎							楽器からでる音の特徴を調べる。気に入った音でリズムをつくって表現する。	楽器からいろいろな音がでることに気づく。気に入った音を見つけてリズムづくりができる。		
	リズムを感じて (4)			○	◎		○					○	○	リズムの特徴を感じ取り、身体反応しながら聴いたり演奏したりする。	いろいろなリズムを感じて身体反応したり、演奏したりできる。	
	みんなで合わせて (6)	○	○	◎	○	○								リズム伴奏を工夫し、合奏をする。	曲想に合わせてリズム伴奏を工夫し、合奏することができる。	
	ようすをおもいうかべて (8)			◎	○		○	◎	○	○				情景を想像して聴いたり、歌ったりする。場面に合う音楽をつくる。	情景に合う歌い方ができる。場面に合う音楽をつくって表現することができる。	
3 学 期	みんなで合わせて (6)	○	○	○	◎							○	◎	楽器を選んだり、リズム伴奏を工夫したりする。	イメージにあった楽器を選ぶことができる。リズム伴奏を作って演奏することができる。	
	やわらかい歌声 (4)	○	○	◎									○		友達と声を合わせて歌う。互いのふしを聴き合って歌う。	みんなで声をそろえて歌うことを楽しんでいる。相手のふしを聴き合いながら歌うことができる。
	ミニ音楽会をしよう (8)			◎	◎		○	○	○						今まで学習したことを生かして、得意なものを演奏する。	今までの学習を生かして、自信をもって演奏している。

③ 「身に付けた力を生かす題材のある年間指導計画」(第5学年)

学年目標	題材	1 学 期 (15)				2 学 期 (18)				3 学 期 (17)						
		みんなの歌声を広げよう	拍子やリズムを感じて	ふしの重なりを感じて	声の響き合いを感じて	音を重ねて	アンサンブルを楽しもう	ミニ音楽会をしよう	曲の感じを生かして	日本のふしの感じを味わおう	身に付けている力を生かし 六年生に音楽を贈ろう I	身に付けている力を生かし 六年生に音楽を贈ろう II				
(1) 創造的に音楽に関わり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして、生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。 (2) 音の重なりや和音の響きに重点を置いた活動を通して、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。 (3) 音楽の美しさを味わって聴き、様々な音楽に親しむようにする。		(3)	(5)	(4)	(3)	(5)	(4)	(6)	(3)	(5)	(6)	(6)				
主な学習内容		リズムや曲の山を生かして表現する	木の音色を味わい、拍子やリズムを感じながら音楽をつくる	自分の選んだふしを他のふしや伴奏と合わせる	様々な合唱の響きを感じて歌ったり聴いたりする。	低音の響きを感じ取り、和音伴奏をつくって表現する。	楽器を選んで、曲の始めや終わり、パートの重ね方などを工夫する。	旋律・音素材・リズム・B・G・M 身体表現等を工夫して音楽会をする。	情景や気持を想像して曲の感じを生かして歌う。	日本のふしの特徴を感じ取る。 おはやしづくりをする。	選曲・表現形態・練習計画を立て、音楽をつくり上げる。六年生に音楽の贈り物をする。	言葉を大切にして曲想を感じ取り心を合わせて歌う。				
A 表 現	(1) 音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏できるようにする。	ア	◎		○	○			○	○						
		イ	○		○		○				○					
	(2) 曲想や音楽を特徴付けている要素を感じとって、工夫して表現できるようにする。	ア	○				○		◎	◎	○	○	◎			
		イ	◎		◎	○	◎	○	◎	○		◎	◎			
	(3) 歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。	ア	○			○				○			○			
		イ						○								
	(4) 音楽をつくって表現できるようにする。	ア					○	◎	○		◎	◎				
		イ		◎					○			◎				
B 鑑 賞	(1) 音楽を聴いてそのよさや美しさを味わうようにする。	ア							◎	◎						
		イ		○			◎		○	○						
		ウ		○	◎	◎	○			○						
A 表 現	(5) 表現教材については次に示すものを取り扱う。 ◎ 共通歌唱教材	ア	イ	ウ	主な教材	青空へのぼろう グッデー・グッバイ こいのぼり◎ 「君が代」 国歌	木片の音楽♪ スティープ・ライヒ作曲	滝廉太郎の歌曲♪ パッフェルベルのカノン ピアノ五重奏曲「ます」♪	林の朝 それは地球・静かに眠れ	パッフェルベルのカノン エンター・ティナー♪ それは地球・静かに眠れ	ピーナッツ・ペンダー♪	児童の興味・関心にもとづいて選曲する	形♪ 星の世界 冬げしき◎ くるみ割り人形	管弦楽の木挽歌♪ 子もりうた◎	祭りばやし 威風堂々 はたるの光	国歌「君が代」 大空がむかえる朝 さようなら
備 考																
学習内容の関連性について		網掛けは、今まで身に付けたことを生かし、児童の実態や願いに応じ、学習する題材														

5 実践授業

(1) 第3学年

関連項目	題 材 名	使用教材	教材選択の観点
表 現 (2)	ようすを思いうかべて ～歌でつたえよう 私たちのふじ山～ (5時間扱い)	「ふじ山」 <参考曲> 「校歌」 「夕日が背 中を押して くる」	・のびのびとしたレガートな感じの旋律 にのせて、美しく堂々とそびえるふじ山 の様子が今も昔も変わらぬ価値として歌 われている。スケールの大きさを感じさ せ、児童の心を動かすもの。 ・国語科で学習した詩の内容及び児童の 生活の中から親近感のあるもの。
題 材 の 目 標		評 価 規 準	
(1) 歌詞とふしの表すようすを感じ て自分なりの歌い方をする。 (2) より様子が聞き手に伝わるよう 工夫して表現する楽しさを味わう。		ア、(関心・意欲・態度) 歌詞の表すようすを、自分のも のとしてとらえている。 イ、(感受や表現の工夫) 自分がとらえたようすを歌のふ しにのせて表現している。 ウ、(表現の技能) 発音や呼吸に気を付けて歌っている。 エ、(鑑賞の能力) 友達の歌い方の工夫を聴き取ることが できる。	
主 な 工 夫 の 要 素			
声の強さ、ふしのまとまり			
学 習 内 容		予想される児童の学び(評価)	教師の支援・工夫
1. 歌詞の内容を理解する。 階名唱をする。 生活の中から富士山 をみつける。		「ふじ山」ってどんな歌? (1) 「どんなけしきかな～。のぼってみたいな。」 「いろいろな富士山の姿があるんだなあ」	資料コーナー ア、ウ 学習カード
2. 旋律線の動きに気付く。 旋律線をなぞる。 フレーズ・拍を感じ て身体反応をする。		こんなふうに歌いたいな (2) 「ここが気に入った。絵を書こう」 「ようすを歌で伝えるには、どうしたら いいんだろう。」	ア、イ ヒントカード エ 体験コーナー
3. 自分の歌い方を 工夫してつくる。		これでどうかな? (1) 「友達に聞いてもらおう。」 「う～ん、いい気分」 「全体的には、これでいいかな。」	エ
4. 工夫した歌い方を演 奏し、誰かに伝える。		“交流している中国の友だちに 伝えよう”など相談して (1) 「どうぞお聞きください。私たちの『ふじ山』です。」	機材の利用 イ、エ

<本時の学習> 3 / 5 時間目

ねらい ・歌詞からようすを思い浮かべ、自分なりの歌い方を工夫する。

学 習 活 動	◇教師の支援 ○評価
<ul style="list-style-type: none"> ・季節の歌を歌う。 ・歌詞に富士山が読まれていて、曲の山が最後にある「校歌」の3番を歌う。 ・学習課題をつかみ、今日の活動内容を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A. お気に入りのフレーズを見つける</p> <p>気に入ったふしを口ずさみながら、その場面の絵をかく。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>B. 歌い方の工夫をする。3人1組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのイメージをとらえやすい体験コーナー（雲、雷、高い場所、多様な伴奏）を回りながら声の強さによる歌い方をする。 ・意見交換をしながら工夫をする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードで自分の学び方をふり返る。 	<p>◇今まで思い浮かべた様子を思い出すようにする。</p> <p>◇AとBの活動を前半と後半に分け交互にできるようにする。</p> <p>◇工夫は1つだけでもよいように伝える。</p> <p style="text-align: center;">○ア, イ</p> <p>◇必要なときヒントカードやラジカセを使う。</p> <p style="text-align: center;">ヒントカード</p> <p>今までの学習で児童の発学から工夫のヒントになるものをカードに書いておく</p> <p style="text-align: center;">○エ</p>

ふじ山 3年 氏名

① え こはば

あたまをくもーのうえにだーし しほうのやーまをみおろーして

②

レレレ ドレミソソ V ラシ③ フ ④

かみなりさーまーをしたにきく ふじはにっぽんいちのやま

③

④

大きなこゝで元気が日本なだそといいはるうた

(2) 第4学年

関連項目	題 材 名	使用教材	教材選択の観点
表現(4) ア	ふしをつくろう ～わたしたちは光二小のサンサーンス～ (8時間扱い)	○動物の謝肉祭(サンサーンス) ○動物の歌	鑑賞と結び付いた教材
題材の目標	<p>○音楽の構成要素を知り動物の動作や鳴き声と結びつける。</p> <p>○動物の鳴き声や動作からイメージを広げふしづくりをする。</p> <p>○もともになるふしの反復や新しいふしの挿入で、イメージに合うふしをつくって表現する。</p>	<p>ア (関心・意欲・態度) 動物の動作や鳴き声を想像し、いろいろな音を出してふしづくりしようとしている。</p> <p>イ (感受や表現の工夫) 動物の動作や鳴き声を想像し強弱や速度を工夫してふしをつくっている。</p> <p>ウ (表現の技能) もともになるふしを反復したり、新しいふしを付け加えたりして、ふしをつくっている。</p> <p>エ (鑑賞の能力) 「動物の謝肉祭」や友だちの演奏を聴き、工夫のよさを聴きとり、自分の表現に生かしている。</p>	
工夫の要素	<ul style="list-style-type: none"> ・リズム ・速度 ・強弱 ・旋律 ・音の高低 	<p>①「動物の謝肉祭」をCDで聴き、動物のイメージをとらえ、主な楽器や音楽を特徴付けている要素を聴きとる。</p> <p>②動物の様子や鳴き声を表した歌を歌い、イメージを感じ取る。</p> <p>③ふしづくりをする動物を選び、鳴き声や動きから音型をつくる。</p> <p>④音型をもとにふしをつくる。</p> <p>⑤一人ずつ発表し、互いに聴き合う。</p>	
次 時	ね ら い	○児童の活動 ◎教師の働きかけ	手 順
1	1 動物の大きさや動き、鳴き声と音の高低・強弱・音色を結びつける	○「動物の謝肉祭」を聴き、動物を想像する、 ◎動物と音楽的要素とを結びつけることに気付くようにする。	想像する ↓ 気付く
	2 教師のつくった「アリ」のふしを模倣する。	○1つのふしについて速度・音高をかえた表現を模倣する。	模倣する
	3 「カッコウ」の続きのふしをつくる。	○レシ、レシに続くふしをソラシドレの音を使ってつくる。	感じ取る つくる
2	4 動物の鳴き声や動きのふしをつくる。	○動物の動きや鳴き声を音型で表す。 ◎例示としてカッコウの音型を示す。	
	5	○もともになるふしをつくり選んだ楽器で演奏する。	
	6	◎音符で書き表せない児童には階名書きでよいことを知らせる。	
	7 強弱や速度を工夫して表現する。	○もとのふしをくり返したり新しいふしを付け加えたりしてふしをつくる。	
	7 強弱や速度を工夫して表現する。	○友達と聴き合い意見交換をする。	聴き合う
3	8 発表し合う。 友達のよさに気付く。	○友達のよさや工夫しているところを感じ取る。	↓ 深める ↓

＜本時の学習＞ 7 / 8 時間目

- ねらい ・動物の鳴き声や動きを想像しながら、つくったふしを強弱や速度を工夫して演奏する。
- ・友達の表現のよさや工夫していることを感じ取り、自分の表現に生かす。

学 習 活 動	予想される児童のつぶやき ◎教師の働きかけ ◇評価	つくる手順
<ul style="list-style-type: none"> 動物の歌を歌う。 つくったふしの表現の仕方を工夫する。 強弱や速度 	<p>「今日は『こぎつね』を歌いたいな。 ◇動物の様子や鳴き声を想像しながら歌っている。</p> <p>「小鳥がかごから出て外に飛び出して、うれしそうに空を飛んでいる様子を表したいな。」</p> <p>「雨が降ってきて、急いで巣にもどるアリの様子を表したい」</p> <p>◎イメージ通りに表現できない児童のつまずきを見抜き、解決をめざして共に考える。</p> <p>◇自分のふしを工夫して表現しようとしている。</p>	<p>想像する</p> <p>試す</p>
<ul style="list-style-type: none"> 友達と聴き合って、表現の手直しをする。 	<p>「強そうに歩いているゴリラだから音をもっと大きくして一つ一つ音を切ってみたら」</p> <p>◇友達のアドバイスをもとによりよい表現をしようとしている。</p>	<p>聴き合う 深める</p>
<ul style="list-style-type: none"> 発表したり聴いたりする。 	<p>「木琴の音を小さくしたので、リスが走っているように聞こえました。」</p> <p>◎聴いてもらいたい人は、発表するように促す。</p> <p>◇友達の表現のよさや工夫を感じ取っている。</p>	<p>聴き合う</p>

ふしをつくらう！

ぼくたちは 小のサンサーンス

4年 | 組名前

①動物をえらびましょう
(ゴリラ)

選んだ理由？
(よそうだから、こいから)

動物のどんな様子をふしに表したいですか？くわしく書きましょう。

例：あまくておいしそうなおかしを見つけたありがたがるこんでにおかしに向かって走っていく様子

(よそう)に歩てる様子

何の楽器でえんそうしますか。
(キーボード)

②動物の鳴き声や動作をもとに音型を考えましょう。

音型

ウッホ ウッホウッホ

③音型ができれば2小節のものになるふしをつくりましょう。

楽譜

歌お休みや(♪) 違い音を使ってもいいですよ



(3) 第5学年

関連項目	題材名	使用教材	教材選択の観点	
表現(4) イ	トガトンを使って 音楽をつくろう (6時間扱い)	・フィリピンのカ リンガ族によるト ガトンの演奏 ・「木片の音楽」 ・「竹たてかけた」	・作品づくりの過程においてヒントに なるもの ・作品づくりの過程においてアイディ アを引き出すための教材 ・新たな体験に気付くもの	
題材の目標		評価規準		
<ul style="list-style-type: none"> 竹の素材のもつ素朴な音を味わいながら、トガトンを使って自分のリズムをつくる。 音の重なりを考えながら構成し、音楽づくりをする。 お互いの音を聴き合いながらつくった作品を演奏する。 		ア (関心・意欲・態度) トガトンを使った音楽に興味をもち、意欲的に音楽づくりをする。 イ (感受や表現の工夫) 拍の流れにのって自分のリズムをつくっている。 ウ (表現の技能) 一人一人のリズムが生きるように、組み合わせる演奏することができる。 エ (鑑賞の能力) 音をよく聴いて、お互いの音楽を認め合うことができる。		
工夫の要素		学習内容		
<ul style="list-style-type: none"> リズム 音の重なり 構成 		(1) 竹の音をよく味わい好きな音を見つけ、自分のリズムをつくる。 (2) グループごとにひとりひとりのリズムを組み合わせる音楽を構成する。 (3) つくった音楽を拍の流れにのって協力して演奏したり、他のグループの演奏を聴き合ったりする。		
次	時間	ねらい	○児童の活動 ◎教師の働きかけ	学習活動 (つくる手順)
1	1	トガトンの音を味わう。	○自分の音を探す。 ○音楽ゲームをする。 ◎音楽ゲームの中にリズムや音の出し方を工夫する過程を入れておく。	さがす 自分の気に入った音を、耳をすましてさがす
	2	一人一人がリズムをつくる。	○フィリピンの「トガトン」を聴く。 ○「木片の音楽」を聴く。 ◎参考となるリズムパターンを示す。 ○自分のリズムパターンをつくる。	聴いて 感じ取る 気付く1 つくる
2	3	グループごとに自分たちの音楽をつくる。	○「竹たてかけた」を聴く。 ○「みんなの作品」を演奏する。 ◎参考となる図を示す。 ○始め方や重ね方を考える。 ◎始め方の例として入れ子式やリズムパターンを提示し選択させる。	気付く2 深める
	4		○構成を考える。 ◎アイデアの出ないグループに入って一緒に作りながらヒントを与える。	この時間までに経験したことを生かして児童は自分たちの作品をつくっていく
	5		○約束ごとを確認しながら練習する。 ◎作品の仕上がらないグループの原因をつかみ、適切な支援を行う。	
3	6	発表して聴き合う	○練習後、グループごとに発表して聴き合う。 ◎お互いのよさに気付くようにする。	*入れ子式 リズム打ちをしない拍に音を入れていく方法

〈本時の指導〉 3 / 6 時間目

(1) 目標

お互いの竹の音やリズムを聴き合いながら組み合わせを考え演奏する。

(2) 展開

過程	◇学習内容 ・学習活動	◎教師のかかわり ☆評価	学習活動 つくる手順
興味をもつ	<p>◇常時活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今月の歌「明日が聴こえる」を歌う。 ・全体でトガトンを演奏する。 	<p>◎発音, 高い音に気をつけるように助言する。</p> <p>◎黒板に演奏の手順を示した図を貼り, 演奏方法を確認する。</p> <p>☆拍にのって自分のリズムを演奏できた。</p>	演奏する
めあてをもって表現する	<p>◇演奏のしかたを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図を見て実際に演奏する。 ・一人一人のリズムを確認する。 ・グループごとに試しながら始め方を考える。 ・音高を考えながら組み合わせる。 	<p>◎構成のパターン例を示す。</p> <p>◎一人一人の考えがグループの中で生かされるよう出てきたアイディアは全部試すよう助言する。</p> <p>◎グループの様子を観察し, つまずきのあるところに, 音の重ね方や組み合わせ方の例示をする。</p> <p>◎トガトンの形式にするかリズムパターンにするか決めるようにする。</p> <p>◎グループの実態に応じて構成するよう助言する。</p> <p>☆互いのアイディアを聴き合いながら, 組み立てている。</p>	気付く つくる 考える
発表する	◇できたところまでを, 発表する。	<p>◎一人一人のリズムや, その組み合わせ方を聴くように促す。</p> <p>☆グループごとの工夫を聴き取ろうとしている。</p>	発表する

IV 研究のまとめと今後の課題

1 研究の成果

児童一人一人が楽しく、主体的・創造的に音楽活動に取り組み、自分の音楽をつくり出すことの喜びを味わうことを願い、4つの視点をもとに研究を進めてきた。

1年間実践を通して、たくさんの願いや迷いをもちながらできるところから確かめていった。具体的な成果は、さらにいくつもの授業を重ね検証する事によって明らかになるところであるが、実践の中から次の2点を確認することができた。

(1) 計画を立てることは、児童を見つめること

新しい学習指導要領に対応できる年間指導計画を作成した。そこでは児童や学校の実態を踏まえながら学習内容をバランスよく配置することに心掛けた。

年間指導計画に従って題材の学習指導案を作成した。考えた指導計画作成の手順に沿って、子どもの実態を何度も見つめ直し、題材のねらいを絞り設定する。それを児童一人一人が確実に身に付けるために、どんな教材を使用することが適切かを吟味して決定する。またその学習に必要な事柄を教師が教える時間と、それを生かして児童が主体的、創造的に活動する時間を効果的に配置する。

さらに、1時間の指導計画を立て、その時間に児童が身に付ける内容を明確に絞る。そして指導や支援の工夫を行う。

この作業を何度も繰り返す中から、計画を立てることは、児童を見つめることであることと確信してきた。

(2) 授業をすることは、児童を生かすこと

児童が主体的、創造的に活動する指導計画も、その効果的な実践が行われて児童のものとなる。児童の学習の状況を具体的に観察しながら、教師が教える時間、児童が主体的に活動する時間を適切に設定する、児童がつくって表現するために示した手順を児童と一緒に確認する、どんな気持ちでどんな動きをしているかを見極め個に応じた言葉かけをするなどによって学習を進めていく。

計画したこと、理論で理解したことが実際に児童のものとなるように実践を行う中から、授業をすることは、児童を生かすことの意味を実感できるようになった。

2 今後の課題

児童が主体的に活動し、創造性を発揮し音楽を楽しむようにするという願いを実現するために、1年間研究を進めてきた。児童の学びを確実にするためには、音楽の構成要素を核として、興味・関心、音楽的な感受、表現の工夫などから児童の学習状況をていねいに見とることが大切である。この児童を見とる力を教師として身に付けることが今後の課題である。

さらに、児童が表現を工夫したり、つくって表現したりする中でより豊かな表現ができるようにするために、研究の内容の実践を重ね検証していくことも課題である。

今後、児童を育てる教師として、地域の教育素材を活用する能力や人の気持ちを敏感に感じ取るみずみずしい感性をもち続けられるよう努力を重ねたい。